

調査団体名	名城大学 理工学部 環境創造学科研究室	団体代表者名	谷口義則(准教授)
活動地域	主に愛知県内河川	団体URL	http://env.meijo-u.ac.jp/lab/ytani.html
<p><活動内容></p> <p>2006年に名城大学に赴任後、フィールドワーク中心のアプローチにより、愛知県内の魚類調査を中心に生態学的な研究を行っている。現在の主な研究課題としては、①オオクチバス、ブルーギル等外来魚の水域環境への影響：特に、外来魚の取り除きの波及効果について ②地球温暖化が小規模ダムによる河川水昇温に拍車をかけると魚類はどのように反応するのか？ ③都市河川における多自然川づくりは魚にやさしい環境をつくっているか？ ④水田周辺の用排水路にすむ魚類の生態：カダヤシを取り除くと何が起こるか？</p> <p>多自然川づくりを評価するため、2007年より県内河川の定量的な魚類調査を行い、従来工法、あるいは規模や経年数による比較、横断工作物による影響を継続的に調査検討しており、良好な河川、河川改修事業(工事)のあり方を提言しようと試みている。本来は護岸のない原生的な河川が好きであるが、より自然豊かな河川を目指して、研究成果から現場への発信をしたいとのことである。</p>			
<p><連携している団体・専門家・自治体など></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「豊田市自然観察の森」での、ため池外来種(オオクチバス等)駆除及びリーダー養成講座への協力(2006年) ○名古屋市動植物実態調査検討会への魚類調査に関する協力(検討会委員)(2008年) ○多自然川づくり河川魚類調査結果について「近自然工法研究会」と連携し、報告会開催、河川管理者へ発信(2008年) ○2008年度多自然川づくり河川魚類調査においては、愛知県河川課より改修工事基礎情報提供を受けながら実施する 			
<p><今までに行った調査・研究></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「サケ・マス生態と進化」(文一総合出版 2004) ○「外来種ハンドブック」(地人書館 2002) ○「川と森の生態学：中野繁論文集」(北海道大学図書刊行会 2002) ○愛知県の多自然川づくり河川魚類調査(2007)：天白川、新郷瀬川、市木川はじめ19河川でのポイント比較調査 ○愛知県の多自然川づくり河川魚類調査(2008)：市木川、龍川、仁王川、準用河川太田川での詳細調査 			
<p><現在直面している課題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 研究内容に関わる工事履歴等基礎情報に関して行政データが蓄積されておらず、入手困難な場合がある。 2) 情報発信に関して、学会以外の場、とりわけ河川管理者とつながる必要があると感じるが、システムがない。 3) 研究者、行政はアプローチが異なっても、河川をより良い環境にしたいという思いは共通のはずであり、そのためには継続的に取り組んでいただけるシステムと意識の高まりが不足していると感じることが多い。 			
<p><今後どんな情報が必要か></p> <ul style="list-style-type: none"> ○河川は総合的な場であり、様々な変遷、干渉を受けているため、研究には地形、地域の歴史等、様々な基礎データが必要である。 ○そのような基礎的なデータを構築、蓄積した上で利用できるDBの存在が不可欠であり、行政が一括管理すべきである(北米等にはシステムが存在する)。 ○環境保全に資するより良い研究を行うためにも、最も必要な情報は、河川、魚類等生態系に関する今までのデータベースにつける。 			